

認知症に対する考え方が変わってきています

古い認知症観

他人事 問題重視 疎外 絶望

- なりたくない、目をそらす、先送り
- (認知症だと)何も分からない、できない
- (本人は)話せない、聞こえない
- (おかしい言動で)周りが困る
- (判断できないから)周りが決める
- 本人は支援されるだけ
- (認知症は)恥ずかしい、隠す
- 地域で暮らすことはできない
- 暗い、諦め、絶望的

新しい認知症観

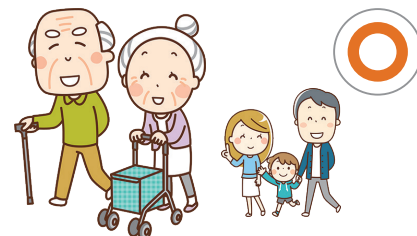
我が事 可能性重視 一緒に 希望

- お互いさま、向き合う、備える
- 分かること、できることが豊富にある
- 話せる、意見を聞く
- 本人が一番困っている、本人なりの意味がある
- 本人が決める(決められるように支援)
- 本人は支え手でもある、経験者として大切な存在
- (認知症でも)自分は自分、自分らしく
- 地域の一員として暮らす、活躍の場がある
- 楽しい、諦めず、希望を

「認知症地域支援推進員活動ガイド(2023年3月版)認知症介護研究・研修東京センター」を基に古河市作成



徘徊するのが心配で外出させずに閉じ込める



地域みんなで動向を見守る

※「徘徊」→「ひとり歩き」と言い換えるように、使用しない言葉も増えています。



本人に会話をさせずに代わりに会話をする



本人と対話し意見を尊重する



料理や趣味などを「危ないから」と言って本人にやらせない



工夫してやり方を考える

周囲の理解や工夫次第で、これまでと変わらない生活を送ることができます

認知症になっても自分らしく

「認知症」とは、脳に何らかの原因で障がいが起き、一度獲得した認知機能(記憶する、言葉を使う、計算する、物事を解決するために深く考えるなど)が低下し、日常生活を送る上で支障が出ている状態のことです。認知症の人の割合は年々増加しており、高齢者の約4人に1人が認知症または認知症予備軍と言われています。この数は高齢化の加速に伴って今後も増える見込みであり、認知症は誰もが自分事として向き合うテーマとなっています。

2024年の「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」施行に伴い「新しい認知症観」が生まれました。認知症の人が尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすことができるよう、本市では認知症のご本人が思いを語り合う「本人ミーティング」を開催しています。ご本人の声に耳を傾け、誰もが自分らしく生きることが出来る古河市の未来を一緒に考えてみませんか。

【問】 ④高齢介護課Tel92-4921